



がん化学療法認定看護師  
粟林 由理恵

私が働いている外来化学療法室は、患者さんが通院で抗がん剤治療を受ける専用の治療室です。ここ4～5年の間に、入院ではなく外来通院で抗がん剤治療を受けられる患者様の数が増えています。当院の外来化学療法室もそのような患者様に対して、快適な治療環境と安全・安心な治療及び看護を提供できるようにと開設されました。私の主な役割は、医師や他の看護師と協力しながら、化学療法を受けられる患者様やご家族の方が安心して治療に取り組めるように、また安全に治療を進めていけるようにサポートすることです。抗がん剤の治療は何種類かの薬剤を組み合わせることで行われることが多いため、治療中にはいろいろな副作用もです。治療前は治療のイメージがつかず不安になったり、治療が何回も続いていくと身体も気持ちもつらくなってどうしていいのかわからなくなることもあります。そんな患者様やご家族の方の気持ちに寄り添いながら、つらい副作用の症状や抱えている悩みが少しでも軽くなるように関わっていきたいと思う毎日です。

## 公開イベント

### 第8回

### サンデーコンサート

患者・家族と職員・ボランティアの集い

開催日：7月20日(日)

開催時間：午後2時～4時

場所：アトリウムバンジー



このコンサートは音楽を趣味とする職員とその家族、友人が共に演奏、合唱しあい、楽しいひと時を過ごそうと企画した手作りコンサートです。素人の演奏集団ですので、皆様にご満足頂けない面も多々あるとは思いますが、この日のために一生懸命練習をしています。一緒に楽しんでいただければ幸いです。数名のプロの演奏家にも応援でご出演頂いております。

武蔵野赤十字病院サンデーコンサートメンバー一同

## 世界赤十字デー&看護週間イベント報告

5月10日(土)朝からの雨にもかかわらず、午前10時のオープンから多くのお客さまがいらしてくださいました。誠にありがとうございました。

バルーンアート(風船で動物を作る)や救護服を着てご家族でイベントに参加されていました。イベントを通じて赤十字の活動等も理解していただけたと思います。来年の5月も楽しいイベントを多数ご用意してお待ち致しております。是非ご参加ください。



風船をプレゼントする高橋副院長・看護部長



救護服を着てご機嫌!!



コンサート風景



職員有志による和太鼓



四季の花 2 パウ

つばみからは想像できない

数頁 頁数や撮影 6月1日

「Eyeむさしの」季刊誌へのご意見をお待ち致しております。

方法：郵便(はがきまたはお手紙にて)

「Eyeむさしの」総務課 広報係まで

(宛先は表紙右上です)

編集制作・写真 飯沼山崎 撮影 飯沼山崎 監修 飯沼山崎

2008年 夏  
季刊 情報誌



No.17

武蔵野赤十字病院

〒 180-8610

東京都武蔵野市境南町1-26-1

TEL 0422-32-3111

http://www.musashino.jrc.or.jp

発行 総務課 広報係

アイ  
Eyeむさしのは患者さん向けの情報誌です  
ご自由にお持ちください



日常生活や社会復帰、スポーツ復帰を目指して、皆様にリハビリをがんばって頂いております。リハビリテーション科のスタッフとしてそのサポートが出来たらと思い、日々の治療をしています。

リハビリテーション科 理学療法士 山崎倫子

### 基本理念

愛の心を高める

### 基本方針

病院職員は、愛の心を高め

「愛の病院」を实践します

### 4つの愛

病む人への愛

同僚と職場への愛

地域住民と地域への愛

地球、自然、命への愛

## 副院長を拝命して 副院長・消化器科部長 泉 並木



当院に奉職させていただいて22年を過ぎました。私は内科とくに肝臓病を専門としてまいりました。慢性肝炎がウイルスによって起こると思っていた人は少数でしたが、C型肝炎ウイルスが発見されてインターフェロン治療によって原因となるウイルスが排除できるようになりました。早期肝臓に対してマイクロ波治療の開発に携わり、1999年にマイアミ大学に招聘されてアメリカ第1例目の肝臓マイクロ波治療を行ってきたことが最も大きな思い出です。近年内科医療が高度専門分化し、当院でも各診療科に分かれています。ここ1年で丹羽、内原、浜口、菅野部長が退職されましたが、何とか後任の医師が確保できて安堵しています。とくに血液内科の加藤部長と内分泌代謝科の藤田副部長には武蔵野赤十字病院の高度医療を担っていただけると期待しております。専門医療だけでなく、救急外来を含めた総合診療も大変重要な分野でもあり、長田部長のおかげで調順な診療が行われ若手医師の内科全般の教育に役立っています。世間では医療崩壊と叫ばれていますが、当院では医療を発展させるべく職員一丸となって努力してまいりたいと思っています。高度専門医療を、各診療科が連携しあって受診にこられる患者さまの疾病治療に全力をあげていきたいと思っています。

## よろしくお願ひ致します



血液・腫瘍内科部長 加藤 淳  
平成20年4月1日より浜口裕之部長の後任として勤務しております。当科は貧血、出血性疾患、および造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）などの血液疾患に対する治療と、血液以外の悪性腫瘍（固形癌）に対する化学療法（抗癌剤による治療）を専門とする内科です。当科では、主に血液疾患を担当する高野副部長、高橋、越野、廣田医師、主に固形癌を担当する中根副部長、御子榮医師の他、研修医2名が在籍し、総勢9名で診療に当たっており、地域の中核施設として、血液疾患、固形癌に対して最先端の医療を提供できる体制をほぼ整えております。私自身は血液疾患全般の他に、長年、血栓、止血領域、特に血小板を主なテーマとして研究してまいりましたが、現在この領域の専門家は極めて少ないので、診断、治療の難しい出血性疾患や血栓症などでお困りでしたらお気軽にご相談下さい。皆様の御要望に少しでもお応えできるよう、一人一人の患者さまと向き合う姿勢をモットーに診療しておりますので、どうぞ安心して受診されますようお願いいたします。

## 内分泌代謝科副部長 藤田 進彦



本年4月より内分泌代謝科に赴任しました。内分泌代謝科では、甲状腺などのホルモンを分泌する臓器に関わる内分泌疾患と糖尿病や高脂血症などの代謝疾患に携わっております。特に糖尿病の治療には積極的に取り組んでいきます。糖尿病は、はじめは自覚症状も無い病気だけに、合併症（網膜症（眼の合併症）、腎臓障害、神経障害、心筋梗塞、脳梗塞）を起こしてから糖尿病にかかっていたことに気がつく例もあります。従って、早期に病気を発見し、患者さまが病気自身を良く理解し前向きに治療を受ける気持ちになっていただくことが大切だと思います。そのために、年に9回行われる糖尿病教室を開催し、また1週間での糖尿病教育入院を行い、啓蒙活動に力を入れてまいります。合併症を持っている患者さまには他科との連携をとりながら、少しでも合併症を進行させないように治療してまいります。患者さま皆様方の健康維持に少しでもご協力できればとの信念で診療に携わっていく所存です。よろしくお願ひいたします。

## 乳腺科副部長 松田 実



この度乳腺科を担当することになりました。乳腺科では、乳腺症・乳腺炎等の良性例から癌・肉腫の悪性例まで、乳房に関する疾患に対応しています。特に乳癌は近年、女性の癌では最も高頻度になり、当科においても治療の中心になっています。乳癌は、早期に発見し治療されれば良く治る癌です。その診断に必要なX線・超音波の機器は、最新のものをそろえています。治療においては、乳腺炎から乳癌まで行いますが、やはり癌の手術が中心になります。乳癌の手術は、縮小化され温存術が高頻度に行われていますが、しかし根治性を低下させることなく、整容性も考慮した手術を行います。乳頭乳輪を温存する皮下乳頭切除術も積極的に行いますし、また形成外科と協力し一期的再建も含めた乳房再建術も行っています。術前・術後補助療法も当科で行います。武蔵野赤十字病院の「愛の病院」を基本理念として、個々の患者さまに合わせた治療を心がけ、診療にあたります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

## いよいよ夏です、5つのポイントで食中毒を防ぎましょう!

### 消化器科副部長 朝比奈 靖浩



いよいよ夏です、6月から9月の湿度が高く暑い季節は食中毒が多い季節です。それは、原因の多くがサルモネラ菌やカンピロバクター菌など細菌によるもので、これらは暑い季節にもっとも増殖しやすいからです。これからの季節は「5つのポイント」を守って、ときには命にもかかわる怖い食中毒を防ぎましょう。

### ☀️ 食中毒とは

原因となる細菌やウイルスが付着した食品や有害・有毒な物質が含まれた食品を食べることによって起こる健康被害を食中毒といいます。食中毒は原因物質によって、①微生物(細菌、ウイルスなど)によるもの、②化学物質によるもの、③自然毒(ふぐ毒、毒キノコなど)によるもの、および④その他に大別されます。多くの場合、おう吐、腹痛、下痢などの急性の胃腸障害を起こします。症状は軽いものが多いですが、なかには腸管出血性大腸菌O-157や、ふぐ毒のように死に至ることもあります。特に、体の抵抗力の弱い子どもやお年よりでは重症化することがあるので注意が必要です。食中毒の場合、通常、人から人へ感染することはありませんが、O-157、ノロウイルス、赤痢菌などは感染力が強く、人から人へ感染することがあります。

### ご家族でできる食中毒予防の5つのポイント

食中毒を予防するためには、食品を安全にする次の5つのポイントを守ることが大切です。

- 「清潔に保つ（ばい菌をつけない）」
  - 手をしっかり洗いましょう。
  - まな板・包丁などの調理器具も熱湯などで消毒しましょう。
- 「生の食品と加熱済み食品とを分ける」
  - 生の肉や魚はしっかり包んで、他の食品とはくっつけない。
  - まな板・包丁・とり箸などは生と加熱済み食品などと区別しましょう。
- 「よく加熱する」
  - 料理はしっかり加熱しましょう。
  - 調理済み食品を食べるときも、再加熱しましょう。
- 「安全な温度に保つ」
  - 料理は早く食べましょう。調理済み食品を室温に2時間以上放置しない。
  - 温かいものは温かい状態で、冷たいものは冷たい状態（冷却）で。
- 「安全な水と原材料を使用する」
  - 野菜や果物など生で食べる食材をよく洗いましょう。
  - 消費期限をすぎたものは食べないようにしましょう。



### 食中毒は夏以外も注意

もちろん、「暑い夏は食中毒の季節」であることには変わりはありません。しかし、ノロウイルスによる急性胃腸炎は毎年冬に猛威をふるいます。このウイルスは2枚貝にいるといわれており、感染力が極めて強いウイルスなので注意が必要です。また、かつて夏しか発生しなかった種類の食中毒が近年冬でも起こるようになってきています。これは住環境の向上で一年中室温が暖かく保たれるようになったこと、冷蔵庫への過信、輸入食材の増加などが原因として考えられます。たとえ冬でも食中毒への警戒を忘れてはいけません。

### ☹️ 食中毒にかかってしまったときは?

食中毒は予防することが大切ですが、腹痛、おう吐、下痢などの症状がみられて食中毒にかかってしまった可能性があるときは、症状が重くなる前に医療機関を受診するようにしましょう。どのような食品をどのように食べたかや、一緒に食べた人の症状などは診断の際の重要な手がかりになります。病院では、必要に応じ検便・検尿や採血などの検査のほか点滴などの処置をすることもあります。下痢止めのお薬は、場合によっては病状を悪化させることがありますので注意が必要です。一方ご家庭では、水分補給と適当な塩分、糖分などの補給に気を配りましょう。これは、おう吐や下痢によりからだの水分が不足しているからです。スポーツドリンクなどを上手に活用するのも一つの方法です。ご家庭内で感染が広がらないように、手洗いを励行し消毒など衛生管理も必要です。

### ☹️ 食中毒の落とし穴

食中毒の中には、O-157のように細菌のつくる毒素が原因になるものや、ふぐ毒などの自然毒や化学物質が原因になるものがあります。これらの毒素は熱に強いことが多いので「加熱さえしていれば安心…」と過信するのは禁物です。